

- 1 日程 平成24年11月6日・7日
  - 2 視察先及び視察事項
    - ① 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院
      - ・病院の概要と再編・統合に至る経緯について
      - ・救命救急センターの運営状況について
      - ・地域医療（二次医療圏）における病院の役割について
    - ② 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 酒田医療センター
      - ・酒田医療センターの概要と運営状況について
      - ・日本海総合病院との連携について
  - 3 視察者 一行9名
    - 委員長 亀山重光・副委員長 田沢弘一
    - 委員 保坂裕一・高井 保・山田義栄
    - 茂岡明与司・樋口浩二
    - 同行 近藤直樹 健康課参事
    - 随行 吉田和実 議会事務局主査
  - 4 応対者 日本海総合病院 栗谷義樹 理事長・脇川清道 法人管理部長 他  
酒田医療センター 松本恭博 事務局長・塚形晃 総務医事課長補佐 他
- 

#### 【酒田市の概要】

酒田市は、平成17年に1市3町が合併して、人口110,507人（平成24年6月1日住民基本台帳）、面積602.79㎢の県内第3の都市で、山形県の西北部に位置し、北に鳥海山を望み、東に出羽丘陵を背にし、南は日本海に面している。

また、山形県の母なる川、最上川がここ酒田で日本海と出会い、沖合39Kmには飛島があり、鳥海山とともに鳥海国定公園に指定されており、自然環境に恵まれたまちである。

#### 【県立・市立病院の再編・統合に至る経緯について】

平成20年4月に、酒田市に設置されていた県立日本海病院（平成5年開設 528床）と市立酒田病院（昭和44年開設 400床）が再編・統合され、地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構を経営主体とする、日本海総合病院と酒田医療センターが設立された。

再編・統合の背景としては、①市立酒田病院の老朽化（築37年経過）に伴い、改築構想が浮上したが、計画していた370床での改築が困難に。②県立日本海病院が開設以来、多額の欠損があったこと。③庄内二次医療圏内・北庄内地域として、三次救命救急センターがなかった、県・市2病院の診療科・診療機能が重複していた、過剰な一般病床数（100床超）などが存在していたなど、医療課題を抱えていた。④自治体病院の勤務医不足、医師の過重労働。⑤二重投資の回避（効率的な医療投資）があった。

再編・統合に向けた動きは、平成12年5月に「市立酒田病院改築検討委員会」の設立から始まり、平成17年6月に国の指導もあり専門家による「市立酒田病院改築外部委員会」が設置され、県立日本海病院との統合再編が望ましいという報告が出された。

その後、県との協議に入り、県においても、外部監査法人から、統合再編によって医療機能の充実化を図ることが地域住民にとって有効との考えが示された。

平成18年9月、県知事と市長が再編・統合することで合意。平成19年3月に「病院再編統合整備基本構想」が策定され、平成20年4月から経営主体を地方独立行政法人として、日本海総合病院（528床・25科）、日本海総合病院 酒田医療センター（235床・7科）に再編・統合しスタート。平成23年度からは、日本海総合病院に、新型救命救急センター（24床）を併設し、急性期病床数として646床に増床。酒田医療センターは、療養病床のみ114床として運営されている。

#### 【再編・統合にあたって特に議論となった点について】

- 1 両病院の医療機能調整と患者サービス
  - ①医療資源の活用と機能分担
  - ②日本海病院を急性期中核病院へ
  - ③市立酒田病院を回復期型療養病院へ
  - ④移行期間の設定（3年間 H20～H23）
- 2 病少数調整
- 3 経営体の選択（一般型地方独立行政法人を選択）
- 4 財務調整、運営費負担金の考え方（運営負担金は病床割合で、県：市 57：43に）
- 5 理事会の構成
- 6 職員調整
- 7 法人服務規程、給与規定等の調整
- 8 共済組合の調整（山形県市町村職員共済へ引継ぎ）

#### 【日本海総合病院の概要】

- ・名称 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院
- ・所在地 酒田市あきほ町30番地
- ・区分 救急告示病院、災害拠点病院、臨床研修病院、へき地医療拠点病院 他
- ・病床数 許可病床数 646床（一般病床 642床、感染病床 4床）
- ・診療科 25診療科（内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科）

・患者数（平成 23 年度）

入院 延入院患者数 203,310 人 （1 日平均 555.5 人）

平均在院日数 11.7 日

外来 延外来患者数 339,475 人 （1 日平均 1,391.3 人）

・経営状況

平成 23 年度決算 営業損益 582,910 千円・当期純利益 329,673 千円

・医師・職員数

（平成 24 年 4 月 1 日現在）

職 種	人数（人）	備 考
医 師	119	臨床研修医 14 人含む
薬 剤 部	21	薬剤師
検査部・放射線部	59	臨床検査技師・放射線技師
リハビリテーション室	19	理学療法士・作業療法士 他
栄養管理室	7	管理栄養士
看 護 部	552	看護師 543 人・看護教員 9 人
医療連携室	3	社会福祉士
事 務	32	事務職
その他	13	臨床工学技師 他
合 計	825	

【救急救命センターの概要】

・開設日 平成 23 年 4 月 1 日

・施設概要 診察室 3、処置エリア、重症エリア 2、高度処置室、経過観察室、  
X線一般撮影室、HCU、ICU、ヘリポート

・患者数（平成 23 年度） 23,865 人（月平均 1,988 人、救急車搬送人数 4,256 人  
入院患者数 4,775 人）

・平日夜間の酒田地区医師会による診療支援

（小児：登録医師 7 人・成人：登録医師 27 人）

【日本海総合病院酒田医療センターの概要】

・名 称 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構  
日本海総合病院酒田医療センター

・所在地 酒田市千石町二丁目 3 番 20 号

・区 分 臨床研修病院

・病床数 許可病床数 114 床

（医療療養型病床 56 床、回復期リハビリテーション病床 58 床）

・診療科 2診療科（内科、リハビリテーション科）

・患者数（平成23年度）

入院 延入院患者数 24,787人（1日平均 67.7人）

平均在院日数 68.5日

外来 延外来患者数 459人（1日平均 1.9人）

・経営状況

平成23年度決算 営業損益 △565,392千円・当期純利益 △18,528千円

・医師・職員数

（平成24年4月1日現在）

職 種	人数（人）	備 考
医 師	4	
薬 剤 部	2	薬剤師
リハビリテーション室	13	理学療法士・作業療法士 他
栄養管理室	2	管理栄養士
看 護 部	37	看護師32人・介護士5人
事 務	6	事務職
合 計	64	

## 【所 感】

日本海総合病院は三次救急医療、高度・救急医療など主に急性期医療を担当し、酒田医療センターは、リハビリテーション機能など主に回復期医療を担当するなど、再編・統合によって異なる性格の病院が設立され、その違いは、両病院の平均在院日数からも伺える。

経営形態については、「地方独立行政法人」を選択し、その利点として、迅速な病院運営への対応、効率的で柔軟な病院運営、医療資源の集約化と連携の強化、多様な患者サービス提供への対応等を挙げていたが、同一の経営形態により採算・不採算部門を補い合うことには理解できるが、個人的には地域医療に責任を持つ立場から、公設公営が望ましいと感じた。

基幹病院としての日本海総合病院での外来診療は、再編・統合の影響もあって医師確保はできており、外来受診について制限はしていないとのこと。山形県での10万人当り医師数は203.0人で、庄内二次医療圏では169.2人、酒田市では208.9人（平成18年末）となっており、県央医療圏の133.0人（平成20年）を上回る環境にある。

公立病院とはいえ、経営主体の違う病院を再編・統合し、役割を明確化した取り組みは、県央地域における今後の地域医療のあり方として参考になった。